

「そんなX」に見られる感情・評価的意味

話者がとらえる事態の価値・意味と非予測性

鈴木 智美

東京外国語大学留学生日本語教育センター

tmsuzuki@tufs.ac.jp

1. 指示詞「こんな/そんな/あんな」に見られる感情・評価的意味

指示詞「こんな/そんな/あんな」には、感情・評価的な意味が強く観察される場合がある。

(1) その年になって、こんなことがまだわからないのですか。

(2) A:「乗り換えを間違えないようにね。」

「そんなことは、わかっているから大丈夫だよ。」

(3) あんな賞をいただけるなんて、思ってもいませんでした。身に余る光栄です。

これらの「こんな/そんな/あんな」を、「こういう/そういう/ああいう」に置き換えると、叱責・非難したり、不満をもらしたり、意外なことに驚いたりする同一の文脈であっても、感情・評価的なニュアンスは、さほど強く感じ取れなくなる。

指示詞に関する先行研究は数多くある。しかし、主として「コ/ソ/ア」の使い分けに焦点を当てたものが多く、「こんな/そんな/あんな」に見られる感情・評価的な意味がいかなるものかについて、その記述は十分であるとは言い切れない。また、否定的・肯定的どちらの感情・評価的意味も見られるとするものと、否定的な意味合いのみを指摘するものとが見られ、その意味の実態も十分に明らかにされていない。そのような意味がいかに生じるのかについても、踏み込んだ考察はなされていない。

ここではそのような「感情・評価的意味」の実態をまず明らかにし、その意味の記述を試みたい。考察の対象とする範囲は以下のようにする。

(4) 「こんな/そんな/あんな」の中から、いわゆる「ソ」系の「そんな」を対象とする。

(5) 「そんなX」という名詞修飾の形をとるものを対象とする。

(6) 文章や談話において話題となった事物を指し示す「文脈指示」の用法を対象とする。

2. 指示詞「そんな」に見られる「感情・評価的意味」の実態

2.1 否定的な意味合いが特徴的に表れる表現(1) 「そんなもの/こと」

「そんなもの」という表現は、否定的な文脈において用いられることが多い。価値・意味・内容・益のないもの、自分の力ではどうすることもできないものなどを表す。

(7) そんなものは{どうでもいい/役に立たない/無意味だ/虚像だ/捨ててしまえ}

(8) {人生/世の中/人間/運不運}とはそんなものだ。

これを肯定的な意味合いの文脈に変えようとする、不自然な表現となってしまう。

(7') ?そんなものは{すばらしい/意義がある/重要だ/大事にしろ}

(8') ? {人生/世の中/人間/運不運}とはそんなものだ。すばらしい。

「そんなもの」は予想していなかった意外なものを示す場合にも使われる。

(9) a そんなものを読んでいるというのは、意外だった。

b ?そんなものを読んでいるというのは、予想した通りだった。

「そんなこと」という表現も、否定的な意味合いで用いられることが多い。価値・意味・真実味のないこと、悪い結果を招くこと、自分の力でどうすることもできないことなどを表す。

(10) そんなことは{どうでもいい/わかりきったことだ}

(11) そんなことより、もっと大事なことが他にあるはずだ。

(12) そんなことは{嘘にきまっている/しらじらしい/言い訳だ}

(13) そんなことをすれば{きっとしかられる/大変なことになる}

(14) そんなことは考えても{しかたがない/どうにもならない}

これを、肯定的な文脈に変えようとする、不自然なものとなってしまう。

(10') ?そんなことは{重要だ/奥深いことだ}

(11') ?そんなことは、一番大事なことだ。

(12') ?そんなことは{絶対に本当だ/いかにも本当らしい}

(13') ?そんなことをすれば{きっとほめられる/いい結果になるだろう}

(14') ?そんなことは{考えた方がいい/考えるべきだ}

「そんなこと」も、予想していなかったことを示す場合に使われる。

(15) a そんなことになったのは、意外だった。

b ?そんなことになったのは、予想した通りだった。

問題となるのは、事態に対する話者のとらえ方である。

(16) a ?そんなことをしてもらって、うれしいです。

b そんなことをもらって、身に余る光栄です。

単純に「うれしい」とすると不自然な表現となる。「身に余る光栄だ」とすれば不自然ではない。「そんなこと」がたとえ客観的にプラスの価値を持つものであったとしても、話者がそれを「気恥ずかしい」「不釣り合いな」「身分不相応な」ことと、とらえていることがわかる。

(17) そんなことまでしてもらって、うれしいです。

「そんなことまで」としてもよい。話者は、普通に考えられる範囲、予想できる範囲を超えた「意外な」「予想外な」ものとして事態をとらえている。

2.2 否定的な意味合いが特徴的に表れる表現(2) 「そんな私」「そんな + 形容詞 + X」

「そんな私」は、話者が自分自身を愚かしいもの、無知なもの、平凡なつまらないもの、取り柄のないもの、みっともないものなどとして自嘲気味に語る文脈で用いられることが多い。

- (18) 私はゲームに目がない。しかし仕事の合間に時間をとって遊ぶことなど難しい。そんな私が久し振りにはまってしまったのがこのゲームだ。
- (19) ほんの数年前まで、田舎の生活など自分とは無縁のことだと思っていた。そんな私が結婚したのは、なんと農家の跡取り息子だった。
- (20) 体力はない。根性も愛想もない。そんな私にできる仕事などあるのだろうか。
- (21) 目がかゆい。涙も鼻水も出てきた。町中でグズグズやっていると、そんな私に、黙ってハンカチを差し出してくれた人があった。

「そんな + 形容詞 (相当表現) + X」という表現も、否定的な意味合いで使われることが多い。「そんなくだらない話、そんなしらじらしい嘘、そんな愚かな真似、そんな空しい努力、そんなこわい顔、そんな理屈っぽい物言い、そんな可愛げのない表情」などの例が見られる。

形容詞自体が否定的な意味合いを持たず、否定の表現を伴うことによって全体として肯定的な内容が打ち消される場合もある。

- (22) そんないい話があるわけがない。
- (23) そんな偉い人がわざわざ来るはずがない。
- (24) そんな簡単なことで済む話ではない。
- (25) そんな若々しい気力は私にはない。

文全体として肯定的な内容が語られているわけではない場合もある。

- (26) そんな大切なことをどうして今まで黙っていたのだ。
- (27) 私がそんな大事な話をしても、いつも冗談で流されてしまう。
- (28) そんな立派な賞を私などがいただいてもいいのでしょうか。
- (29) そんな哲学的な話は頭が痛くなるだけだから、もうやめましょう。

名詞自体が肯定的な意味合いを持つ場合も、文全体として肯定的な内容が打ち消されるか、話者が事態を何らかの意味で否定的にとらえる文脈となっている。

- (30) あいにく私にそんな度胸はない。
- (31) そんな励ましの言葉も、ただ虚しく響くだけだ。
- (32) そんな美人を奥さんにもらえるなんて、彼にはちょっともったいない。

以上見たように、「そんなX」に感情・評価の意味が観察される場合、話者は事態を価値・意味がない（「つまらないこと」）ととらえているか、予想外のもの（「考えてもいなかったこと」）ととらえている。話者は何らかの意味で事態を「否定的」ととらえていると言える。

3 「そんなX」の意味の記述

(33) 「そんなX」の意味

スキーマの意味：

事物Xは、類似の性質・特徴を持つ事物のカテゴリーの中の一つの例。

特殊化（具体化・詳細化）された意味1：

事物Xは、類似の性質・特徴を持つ事物の中の一つの例。カテゴリーの中には話者にとって相対的により価値の認められる他の事物が存在する。

特殊化（具体化・詳細化）された意味2：

事物Xは、類似の性質・特徴を持つ事物の中の一つの例。カテゴリーの中には話者にとって予測可能な他の事物が存在する。

話者にとって相対的により価値の認められる他の事物が存在する場合には、「そんなX」には「価値・意味がない／つまらない」という感情・評価の意味が伴い、話者にとって予測可能な他の事物が存在する場合には、「予想外だ／自分の力ではどうすることもできない／考えてもいなかったことで驚きだ」という感情・評価の意味が伴う。

「そんなX」のスキーマの意味は、「ベース（base）」と「プロフィール（profile）」の概念を用いて表すと、以下の図1のようになる。

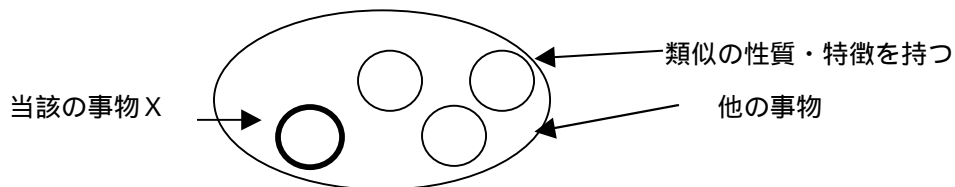


図1 「そんなX」のスキーマの意味

参考文献

- 岡部 寛（1995）「コンナ類とコウイウ類 ものの属性を表す指示詞」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法（下）』くろしお出版 pp.638-644
- 木村英樹（1983）『『こんな』と『この』の文脈照応について』『日本語学』第2巻第11号 pp.71-83
- 金水 敏・木村英樹・田窪行則（1989）『指示詞』（寺村秀夫企画・編集 日本語文法セルフマスターシリーズ4）くろしお出版
- 金水 敏・田窪行則編（1992）『指示詞』（日本語研究資料集第1期第7巻）ひつじ書房
- 佐久間鼎（1983）『現代日本語の表現と語法 増補版』くろしお出版（復刊第1版）
- 高橋太郎（1990）「指示語の性格」『日本語学』第9巻第3号 明治書院 pp.4-21
- Langacker, Ronald W. 1987 *Foundations of Cognitive Grammar Vol. 1 Theoretical Prerequisites* Stanford: Stanford University Press.